

皆で行く意味 議論も「学び」

前回の続きを話します。学年の生徒による多数決という従来の方法をやめ、実行委員会の議論によって選定することになった修学旅行のコース選び。実行委員会の出した結果は、北海道、長崎県対馬、沖縄県座間味、それと西表島となりました。

残念ながら、選定されなかったコース提案の中には、東北地方での被災地支援をメインとしたものがありました。観光地に行くのではない、現地での行動を目的としたこれまでにない提案だったと思います。

いよいよ、4コースへの登録が始まるとうする時、修学旅行の掲示板には模造紙2枚に書かれた意見が張り出されました。一部を紹介します。

「自分の好きなことが分かり始め、かたち」ができてくるということは、知らず知らずの

続・修学旅行

はぐくむ

うちに自分の可能性を狭めてしまっているのではないか？」
「もっと、いろんな人と出会っているんな考えを知りたい！もっと自分の世界を大きくしたい！って思う。なんか自分を守る防護壁高くない？ 限られた友達とだけ通信しあって、その世界狭くない？」
自分の殻を越えて新しい発見をする旅をつくらないか、という意見でした。これに対して、実行委員会からコメントが張り出されます。

「出された8企画を4企画にしぼるのは、いい意味でも悪い意味でも血で血を洗うような争いだったかと思えます」「結果に満足がいけない人が多いのは事実です」「どうか企画者を信じ、これからのプレゼンに耳を傾けてください」

さらに別の意見が張られま

す。「『学び』って何だろうね。『知る』って何だろうね。正直なところ、1人で旅に行った方が学びは多いんじゃない？無理して皆で行こうとしてない？『皆で』って言葉は危険だよ。それでも皆で修学旅行に行きたいのは、なぜ？」

これに対してYさんが答えます。「一瞬一瞬で思ったことを『共有』するのって大切なことだと思えます。考えを共有する、思いを共有する、同じ時間を共有することは『1人』では出来ません。だからこそ『皆で』行く意味があるのだと思えます」

このやり取りを見ていて、既に旅は始まっているのだと感じました。その意味を問い、自分たちのあり様を問いながら、共同でつくり上げる旅。旅行という姿の「学び」そのものだと思います。

（自由の森学園理事長

鬼沢真之）